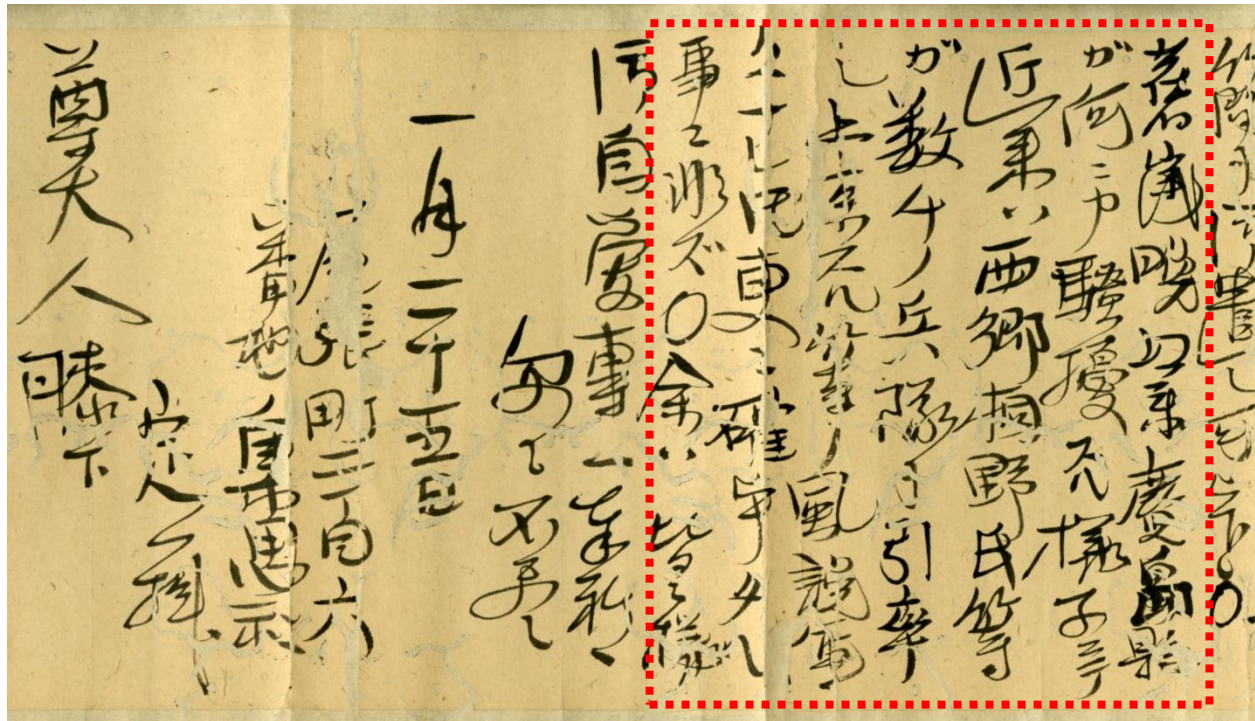


西南戦争を伝える杉田定一の手紙



1877年「集思社の動き、西南戦争の風聞、草莽事情購読依頼などの書簡」

池内啓収集（杉田家旧蔵）文書 当館蔵 [デジタルアーカイブへ](#)



旧歳晚以来鹿児島
 ガ何ニカ騒擾スル様子ニテ
 近来ハ西郷桐野氏等
 ガ数千ノ兵隊ヲ引率
 シ上京スル等ノ風説□□
 □ナレトモ更ニ確乎タル
 事ニ非ズ：（以下省略）

解説

廃藩置県後の政府の一連の近代化政策、特に秩禄処分・徴兵制・廃刀令などの政策は、士族の社会的地位と生活に激変をもたらしました。多くの士族が没落する一方で、同じ士族出身でありながら、政府高官は専制的な振る舞いと贅沢な生活に傾いたので、反政府感情が高まりました。明治六年の政変にて下野した征韓派参議（西郷隆盛・板垣退助・江藤新平・副島種臣・後藤象二郎）はこのような士族の不满を背景に政府批判の活動を行っています。

1874年（明治7）1月17日、板垣、江藤、副島、後藤と福井藩出身の由利公正ら8人の連名により、**民撰議院設立の建白書**が左院に提出されました。建白書の全文は同時に『日新真事誌』に公表され、この後の**自由民権運動**の先駆となりました。

一方で保守的な士族を中心として反政府暴動も引き起こされています。1874年（明治7）1~2月の江藤新平を首謀者とする佐賀の乱、1876年（明治9）10月の熊本の敬神党の乱、福岡の秋月の乱、山口の萩の乱などです。1873年には徴兵制に反対する血税一揆、76年には地租改正に反対する一揆など大規模な農民一揆が起こっており、各地の反政府の士族勢力と農民一揆が結びつくことを恐れた政府は後に地租の税率を3%から2.5%に引き下げています。

1877年（明治10）に鹿児島島の私学校派士族による火薬庫襲撃事件をきっかけに**西南戦争**が引き起こされています。首領にまつりあげられた西郷隆盛を中心として九州各地の反政府士族が呼応したため、半年間に及ぶ最大にして最後の士族による反乱となりました。

西南戦争の鎮圧後、国内において政府に対する軍事的脅威はなくなり、これ以後の反政府運動の主流は自由民権運動を中心とした言論で民衆に働きかける形態へと転換することになります。

資料の注目ポイント

杉田定一は明治~大正時代の政治家です。1851年（嘉永4）に越前国坂井郡波寄村の豪農、杉田仙十郎の長男として生まれました。1875年（明治8）政治家を志して上京し、「采風新聞」の記者として活動を行っています。

資料は杉田定一が東京で新聞記者を勤めていたときのもので、1877年（明治10）1月25日付の父仙十郎宛ての書簡です。西南戦争の直前にあたるもので、地租改正に反対する一揆のことや西郷らが挙兵し上京するなどの風聞を伝えています。この書簡を送ったあと土佐に赴いた杉田は板垣退助らと交友し、自由民権運動に身を投じることになります。

関連資料

名称	概要	備考
「集思社の動き、西南戦争の風聞、草莽事情購読依頼などの書簡」	池内啓収集（杉田家旧蔵）文書 当館蔵 A0174-00156	デジタルアーカイブ福井で閲覧可能。 https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/archive/da/detail?data_id=011-327911-1-p1
福井県文書館月替展示 「ふくい人はみた！ 異国・災害・大事件」	江戸時代から幕末・維新期の「ふくい人」の目を通して見た、さまざまな出来事を紹介。	当館 WEB にて公開中 https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/fukui/08/m-exhbt/20161112AM/20161112.html
福井県文書館企画展示 「杉田仙十郎・定一・鈴 およこ展 -自由民権の土壌-」	衆議院議長や貴族院議員としても活躍した福井県出身の政治家、杉田定一の父、仙十郎と妻、鈴に焦点をあてた展示	当館 WEB にて公開中 https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/fukui/08/2012exhb/2013exhb00.html

参考文献

- ・『国史大辞典』 吉川弘文館
- ・『日本史（A B 共通） 教授資料 研究編』 山川出版社